

父子鑑定 肯定例

Marker	PI	擬父	子
CSF1PO	0.6791	10 12	12 13
D12S391	4.0816	18 18	18 18
D13S317	3.0066	12 12	8 12
D16S539	1.8050	9 9	9 12
D18S51	2.3255	14 14	14 16
D19S433	22.7272	14 16.2	13 16.2
D1S1656	4.6297	14 16	14 16
D21S11	2.2026	30 30	29 30
D2S1338	2.5680	19 24	19 24
D3S1358	0.7605	16 18	15 16
D5S818	3.5739	12 13	13 13
D7S820	3.5463	8 10	10 10
D8S1179	1.1261	13 15	10 13
FGA	1.4285	24 25	23 24
Penta D	0.8059	9 11	9 12
Penta E	2.8216	11 16	14 16
TH01	0.7911	6 7	7 9
TPOX	0.9780	8 11	8 8
vWA	250.0000	18 21	14 21

Marker の列には検査された遺伝子座名（ローカス）が表示されています。

擬父、子の列には各遺伝子座の検査で検出されたアレルが表示されています。

CSF1PO の遺伝子座で擬父は 10 と 12 というアレルをもっていることが示されています。子は 12 と 13 です。両方で 12 のアレルが共有されていることから、この遺伝子座の検査で擬父は子の生物学上の父であることから排除されません。PI 列に 0.6791 という数字が記入されていますが、これは共有されたアレル 12 の日本人の間における出現率を基に計算された統計数値で親子らしさを算出するための指数です。

D12S391 では擬父は 18 と 18 です。この擬父は両親から同じ型の 18 というアレルを遺伝したことがわかります。子も 18 と 18 です。子の母も 18 をもっていることがわかります。擬父と子は 18 を共有しているのでこの遺伝子座の検査でも擬父は子の生物学上の父であることから排除されません。PI は 4.0816 です。

以下、全ての遺伝子座の検査でも両者はアレルを共有していることがわかりました。すなわち、この擬父はこの子の生物学上の父であることから排除されないということになります。それでは、肯定確率はいくらになるかということになりますが、PI 値を総積算すると父らしさを示す数値が得られます（1 億 3 千万）。この数値の逆数が両者が父子であることを拒絶する誤差とするので、肯定確率は >99.9999% となります。

父子鑑定 否定例

Marker	擬父	子
CSF1PO	10 10	11 12
D12S391	19 19	18 18
D13S317	11 12	8 12
D16S539	9 12	10 12
D18S51	13 14	13 20
D19S433	14 14	13 13
D1S1656	14 15	15 15
D21S11	30 31	30 30
D2S1338	17 22	19 23
D3S1358	15 16	17 17
D5S818	12 13	7 11
D7S820	11 12	8 10
D8S1179	15 17	10 14
FGA	22 23	23 23
Penta D	9 10	8 11
Penta E	17 19.4	5 19
TH01	6 7	7 8
TPOX	8 8	10 11
vWA	16 17	17 18

太字で書かれた遺伝子座名 (Marker) は両者がアレルを共有していない。
11 の遺伝子座で父子であることが否定されたケース。